

FFGビジネス  
コンサルティングの

# 釣道

ちよつと  
つりみち

[世界の阿蘇に跳ねる  
白のヤマメ?!、  
黒のニジマス!? 編]

Vol.17



釣れる筈のニジマスイメージ



白川で物思いに耽ける



黒川でニジマスを狙う

秋の高原の清澄な空気と、黄金の輝きを揺らすスキの穂が地平の果てまで続く緩やかな丘陵。阿蘇外輪の草原に立つと得も言われぬ「風雅」を感じる。実際この景観にはバツハのフーガがよく似合う。それはパイプオルガンでもチェンバロの響きでもなく、どこか哀切を感じるリユートで奏でられたもの

がいい。

18万年もの永い時間の中で形成された地形に、8万年の歳月をかけて土が覆い草木が茂り今に至った。現代と違い、科学技術もなく知・情報の伝播が限られた中世は、神々の存在が今より身近だったのだろう。遠く九重連山や祖母傾山系からカルデラに連なる黄金色の草原が綾なすこの雄大な大地の造形の上で駆け抜ける風に吹かれる時、数多の宗教音楽を生み出したパロックの旋律を連想するのは、神々というか、大いなる存在を意識せしめられる由なのかもしれない。

秋の高原の清澄な空気と、黄金の輝きを揺らすスキの穂が地平の果てまで続く緩やかな丘陵。阿蘇外輪の草原に立つと得も言われぬ「風雅」を感じる。実際この景観にはバツハのフーガがよく似合う。それはパイプオルガンでもチェンバロの響きでもなく、どこか哀切を感じるリユートで奏でられたもの

18万年もの永い時間の中で形成された地形に、8万年の歳月をかけて土が覆い草木が茂り今に至った。現代と違い、科学技術もなく知・情報の伝播が限られた中世は、神々の存在が今より身近だったのだろう。遠く九重連山や祖母傾山系からカルデラに連なる黄金色の草原が綾なすこの雄大な大地の造形の上で駆け抜ける風に吹かれる時、数多の宗教音楽を生み出したパロックの旋律を連想するのは、神々というか、大いなる存在を意識せしめられる由なのかもしれない。

震災後、久しぶりに訪れてみた阿蘇は今、57号線と並走する道路が新設され渋滞もなく行きやす

震災後、久しぶりに訪れてみた阿蘇は今、57号線と並走する道路が新設され渋滞もなく行きやす

秋の高原の清澄な空気と、黄金の輝きを揺らすスキの穂が地平の果てまで続く緩やかな丘陵。阿蘇外輪の草原に立つと得も言われぬ「風雅」を感じる。実際この景観にはバツハのフーガがよく似合う。それはパイプオルガンでもチェンバロの響きでもなく、どこか哀切を感じるリユートで奏でられたもの

秋の高原の清澄な空気と、黄金の輝きを揺らすスキの穂が地平の果てまで続く緩やかな丘陵。阿蘇外輪の草原に立つと得も言われぬ「風雅」を感じる。実際この景観にはバツハのフーガがよく似合う。それはパイプオルガンでもチェンバロの響きでもなく、どこか哀切を感じるリユートで奏でられたもの

秋の高原の清澄な空気と、黄金の輝きを揺らすスキの穂が地平の果てまで続く緩やかな丘陵。阿蘇外輪の草原に立つと得も言われぬ「風雅」を感じる。実際この景観にはバツハのフーガがよく似合う。それはパイプオルガンでもチェンバロの響きでもなく、どこか哀切を感じるリユートで奏でられたもの

秋の高原の清澄な空気と、黄金の輝きを揺らすスキの穂が地平の果てまで続く緩やかな丘陵。阿蘇外輪の草原に立つと得も言われぬ「風雅」を感じる。実際この景観にはバツハのフーガがよく似合う。それはパイプオルガンでもチェンバロの響きでもなく、どこか哀切を感じるリユートで奏でられたもの

秋の高原の清澄な空気と、黄金の輝きを揺らすスキの穂が地平の果てまで続く緩やかな丘陵。阿蘇外輪の草原に立つと得も言われぬ「風雅」を感じる。実際この景観にはバツハのフーガがよく似合う。それはパイプオルガンでもチェンバロの響きでもなく、どこか哀切を感じるリユートで奏でられたもの

秋の高原の清澄な空気と、黄金の輝きを揺らすスキの穂が地平の果てまで続く緩やかな丘陵。阿蘇外輪の草原に立つと得も言われぬ「風雅」を感じる。実際この景観にはバツハのフーガがよく似合う。それはパイプオルガンでもチェンバロの響きでもなく、どこか哀切を感じるリユートで奏でられたもの



大観峰でソフトクリーム♡